

空飛ぶクルマ向け充電設備の共同開発に向けた バーティカル・エアロスペースとの業務提携契約締結

2023年11月15日
関西電力株式会社

当社は本日、バーティカル エアロスペース Vertical Aerospace Group Ltd.（以下、バーティカル・エアロスペース）と空飛ぶクルマ事業に係る業務提携契約を締結し、日本およびアジア地域における空飛ぶクルマ向け充電器および充電インフラ設備の調査・開発を開始しました。

バーティカル・エアロスペース[※]は、英国に本拠地を置き、eVTOL（電動垂直離着陸機）の開発を行う先進的な空飛ぶクルマの機体メーカーです。2025年の大阪・関西万博ではeVTOL機「VX4」の運航を目指しています。

空飛ぶクルマ向けの充電インフラ構築にあたっては、対象とする機体の仕様を踏まえた開発が必要です。そのため当社は、本業務提携を通じて、バーティカル・エアロスペースから充電設備開発に必要な機体情報の提供を受け、その内容を踏まえて充電器・バッテリー冷却装置・エネルギーマネジメントシステムの開発等に取り組みます。

これにより得られた空飛ぶクルマに係る知見や成果を、大阪・関西万博での運航や、その後の日本・アジア地域での社会実装に繋げていきます。

当社は、バーティカル・エアロスペースとの業務提携により、機体の仕様を踏まえた充電設備の開発を加速させ、空のモビリティの電化推進を通じたゼロカーボン社会の実現に貢献してまいります。

※英国ブリストルに本拠地を置き、2026年末での型式証明取得を目標に、航空機安全設計基準に基づいた5人（パイロット1人、乗客4人）乗りのeVTOLの開発を行う。

以上

別紙：関西電力とバーティカル・エアロスペースの業務提携の概要

関西電力とバーティカル・エアロスペースの業務提携の概要

<業務提携の概要>

- ① 空飛ぶクルマ向け充電設備(充電器・バッテリー冷却装置・エネルギーマネジメントシステム)の仕様・設計・運用の定義や共同開発
- ② 空飛ぶクルマの運航サービスに必要な充電インフラ構築に関する調査や関係企業・省庁との連携
- ③ 空飛ぶクルマ向けの充電器・バッテリー冷却装置・エネルギーマネジメントシステム等の仕様や規制に関する調査
- ④ カーボンニュートラルな空飛ぶクルマの運航の検討
- ⑤ 空飛ぶクルマの社会受容性及び認知度向上に寄与する取組み

<参考：バーティカル・エアロスペースの概要>

設立年	2016年
代表者	Founder & CEO Stephen Fitzpatrick
所在地	英国ブリストル
事業概要	空飛ぶクルマの機体開発、製造、販売

<参考：バーティカル・エアロスペースが開発する機体「VX4」の概要>

機体寸法	全長13m、全幅15m、全高4m
最大搭乗者数	パイロット1名、乗客4名 計5名
航続距離 巡航速度	航続距離 約160km 巡航速度 約240km/h ※試験中の機体の数値であり、今後の変更があり得る。 ※気象条件、搭乗者数等により変わり得る。

(VX4のイメージ) ※ バーティカル・エアロスペース提供

